

14:26 【主】はモーセとアロンに告げられた。

14:27 「いつまで、この悪い会衆は、わたしに不平を言い続けるのか。わたしは、イスラエルの子らがわたしにつぶやく不平を聞いた。

14:28 彼らに言え。わたしは生きている——【主】のことば——。わたしは必ず、おまえたちがわたしの耳に語ったとおりに、おまえたちに行く。

14:29 この荒野におまえたちは、屍をさらす。わたしに不平を言った者で、二十歳以上の、登録され数えられた者たち全員である。

14:30 エフンネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかに、おまえたちを住まわせるとわたしが誓った地に、だれ一人入ることはできない。

14:31 おまえたちが『かすめ奪われてしまふ』と言った、おまえたちの子どもについては、わたしは彼らを導き入れる。彼らはおまえたちが拒んだ地を知るようになる。

14:32 しかし、おまえたちはこの荒野に屍をさらす。

14:33 おまえたちの子どもは、この荒野で四十年の間羊を飼う者となり、おまえたちがみな、屍となるまで、おまえたちの背信の責めを負わなければならない。

14:34 おまえたちが、あの地を偵察した日数は四十日であった。その一日を一年と数えて、四十年の間おまえたちは自分の咎を負わなければならない。こうして、わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。

14:35 【主】であるこのわたしが言う。一つになってわたしに逆らったこの悪い会衆のす

べてに対して、わたしは必ずこうする。この荒野で彼らは死に絶える。

14:36 また、モーセがああ地の偵察のために遣わした者で、帰って来て、その地について悪く言いふらし、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちもだ。」

14:37 こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、【主】の前に疫病で死んだ。

14:38 しかし、あの地を偵察しに行った者のうち、ヌンの子ヨシュアと、エフンネの子カレブは生き残った。

「わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。」と主は宣言して、実際にその通り40年間もイスラエルは荒野をさまよいました。また「その地を悪く言いふらした者たち」は疫病で死にました。何か神様があまりに厳しいように感じます。しかしこれらは会衆が自ら招いたことだったのです。

一つにはカナンに入らないのはイスラエルの会衆が決めたことでした。ならば荒野をさまようしかないのは当然です。また疫病は誰であつてもかかる可能性があるもので、もしも守られるとしたら、それは主の恵です。その主から離れてしまったのはやはり彼ら自身です。

これは主の永遠のさばきを思い起こさせます。信じない者は滅びるというのは、了見の狭い神だと言う人もありますが、そうではありません。神から離れることを選ぶのは人間ですし、また肉体の死と神からの断絶は、もともと誰であつても決まっていることなのです。主の恵がなければ回復しないのに、その恵を拒否するのは誰だろう人間自身なのです。

私たちはヨシュアとカレブのように、神の御心を受け入れ、その救いというカナンの地に入った者です。ですから荒野のようなこの世にあつても、ヨシュアとカレブのように従順に神の勝利を確信して、信仰のチャレンジをしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

